

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年1月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和5年1月16日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

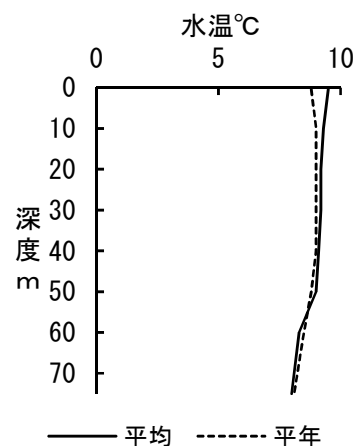
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 1月平均値 6.2m 平年値 7.5m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	9.5	8.8	+0.7
10	9.3	9.0	+0.3
20	9.2	9.0	+0.2
30	9.2	9.0	+0.2
40	9.1	9.0	+0.1
50	9.0	8.8	+0.2
60	8.3	8.5	-0.2
75	8.0	8.1	-0.1



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
12月下旬	8.7	9.5	-0.8
1月上旬	8.6	8.3	+0.3
1月中旬	8.8	7.8	+1.0

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	4.6	4.9	-0.3
10~20	1.5	2.0	-0.5
20~40	1.2	1.7	-0.5
40~75	0.4	1.1	-0.7

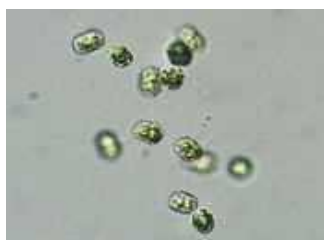
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは、地点1で*Asterionella formosa*(ホシガタケイソウ:珪藻)が、地点2~5で*Cosmocradium constrictum*(コスモクラヂウム:緑藻)が細胞数で最も多く認められたほか、地点3~5では*Aulacoseira ambigua*(アウラコセイラ:珪藻)も細胞数で多く認められた。

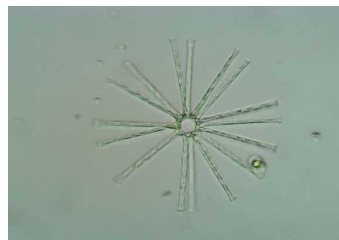
動物プランクトンは地点1で*Synchaeta sp.*(ドロワムシ属:ワムシ類)が、地点2~5で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生とコペポデイド期幼生がそれぞれ個体数密度で最も多く認められた。



Cosmocradium constrictum



Aulacoseira ambigua



Asterionella formosa



Synchaeta sp.



ノープリウス期幼生



コペポデイド期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	1月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.7	96.4	10.5	94.1	0.2	(+2.3)
10	10.6	95.4	10.3	92.6	0.3	(+2.8)
20	10.5	93.8	10.1	91.3	0.4	(+2.5)
30	10.4	93.3	10.1	90.9	0.3	(+2.4)
75	4.8	41.8	7.5	65.7	-2.7	(-23.9)